

平成19年度 第2回コミュニティバス等検討委員会 会議録

日 時	平成20年1月25日(金) 10:00~11:45
会 場	北館4階 教育委員会室
出席者	会 長 正司 健一 副 会 長 土井 勉 委 員 亀田 吉信 坂本 登 下谷 富雄 西山 哲 濱田 士郎 徳満 文昭 欠席委員 亀山 昌也 室井 明 海士 美雪 事 務 局 鴛海 一吉(総務部参事) 今倉 明(総務部次長) 水谷 幸雄(行政経営担当課長) 谷崎明日出(道路課長)
事 務 局	総務部行政経営課, 都市環境部道路課
会議の公表	公 開
傍聴者数	2 人

1 会議次第

(1)会長挨拶

(2)議題

報 告

- ・第1回バス事業者との連絡調整会議(1/22)の報告について  
  今後の取組について
- ・バスマップの作成について
- ・その他

2 提出資料

資料1 南つつじヶ丘地域お出かけマップ(京都府亀岡市)

資料2 芦屋市内線運行系統図(阪急バス)

3 審議経過

開 会

(正司会長)

それでは事務局, 議題 について報告をお願いします。

(事務局・水谷課長)

<第1回バス事業者との連絡調整会議(1/22)の報告について>

連絡調整会議について

- ・調整会議のメンバー, 設置目的, 協議内容, 開催時期等について協議
- 当日の協議事項について
- ・バスマップについて協議

(土井副会長)

連絡調整会議の趣旨はそれでよいのですが、まちづくりの観点から言うと、今まで単発的にやられたような会議ではなく、継続的なバスをより利用しやすくする、という会議にならないと話が前に進んでいかない。そこで、例えばバスのサービス水準をあげると、どれくらい利用者が増えるのかということの検討できないか。そういうものをつかんでいくとお互いに目指すものがはっきりとしていく。サービス水準向上策が実行されたら、その結果をお互いに共有しあうことで、次により効果的な施策をうちだしていく。そうすると芦屋市の行政だけでなく、その成果は広く多くの人と共有していただくことで税を使うことでも意味がある。そういうことも調整会議で論議いただき、ここででてきた話を検討委員会でもご紹介いただけることが望ましい。

(事務局・水谷課長)

いろいろな視点から考えていきます。要望だけの会議にならないように配慮していきます。検証については、その趣旨はわかりますが作業的なこともあり、今後の検討ではないかと思っています。

(土井副会長)

施策については、優先順位で考えることが重要です。どのサービス水準を上げれば、どれほどの効果があるのかを把握できると、優先順位が明確になる。

(正司会長)

連絡調整会議に、場合によっては警察や鉄道事業者や県民局にも入っていただいた方がよい案件もあると思います。本来の目的を達するためにも弾力的に運営していただければと思います。

(西山委員)

事務局が言われたとおりで、従前は、芦屋市からの要望の際には、その都度、その都度でお聞きしたり言い放しで反省しています。こういう調整会議ができましたので、いろいろなテーマを協議させていただいて、短期でできるものと中長期でできるもの、土井副会長ご指摘の優先順位をつけて取り組みをさせていただいて、警察や福祉などのいろんな関係の方と意見交換をさせていただいて、なぜ出来ないのか、なぜやりづらいのか、なぜこれはすぐに出来るのかなど、お話をさせていただくように思っています。

(正司会長)

特に他なければ、次の議題 のバスマップについて事務局から説明をお願いします。

(事務局・水谷課長)

<バスマップの作成について>

- ・事務局で今年度中に芦屋市版のバスマップを作成してはどうかの提案
- ・資料1は京都府交通対策課の「南つつじヶ丘のおでかけマップ」
- ・資料2は阪急バスの芦屋市内運行系統図
- ・芦屋市版のバスマップについては、資料1を参考にして作成する
- ・阪急バスの運行系統図(資料2)を工夫して掲載する

(正司会長)

当初提案のあったシンポジウムの実施に、一過性で終わるのではないかといった危惧が示され、例えば、ワークショップの方がいいのではないかといった議論が前回行われました。その場合も目的をはっきりしたものにしないと、といった議論の中で、転入者向けに配っている芦屋市の地図は改良の余地が多い、バス停の位置も示された、市民の方が本当に使えるようなマップを作っていくことが大切ではないか。例えばそのためのワークショップといった位置付けも考えられるのではないかと議論されました。これを

受けて、事務局の方で検討が進められ、今年度は、シンポジウム、ワークショップの開催よりもマップづくりを行うことをその目標とすることにされました。そこで、ぜひとも、皆さんのご意見をいただきたいというお話であります。ところでマップは有馬線も含めて、市域全域を掲載するご意向でしょうか。

(事務局・鷺海参事)

まだそこまで具体的に考えていません。もし、京都府のようなエリア別であれば何種類ものマップを作成しなければならず、19年度予算では無理です。ですから一枚ものしか出来ないし、全線は盛りこまず、一番利用するところを盛り込むのか、その辺まだ決まっていないのでご議論いただければと思っています。

(正司会長)

予算的なことは本委員会の所轄ではありませんが、バスがこんなに走っている雰囲気的なことが伝わり、少なくともそのメインルートについては、地図に掲載されているので多くの市民の要求にはとりあえず応えているが、もっと細かな情報については、例えば阪急バスのHPなど見ていただくといったような2段階での情報提供を考えていて、まずその第1段階用のマップを作ることが目標でしょうか。

(事務局・鷺海参事)

そのとおりです。まだバス利用者が少ないので、「芦屋の路線はこんなに便利ですよ。乗ってください。」という意識が高まればいいのかと思っています。

(坂本委員)

確かにこのバス系統図は漏れはありませんが。要はこれをシンプル化するということがまず基本となりますね。その裏に便利なところの情報を入れる。基本的な考えは大賛成です。

(亀田委員)

亀岡のバスマップと芦屋のバス系統図との決定的な違いは地図の上にあるのかどうか。他の街の分は比較的地図の上に路線を書いているのが多い。それを見てはじめて分かるというケースがある。裏表をつかってもいいし折ってもいいし、A3より大きめでもいい。これを全部縮小するのか、代表的な路線のみを書いていくのか、地図の上を書くことが一番大事です。ここからスタートして、サイズだとか見やすさとか論議すればよいのではと思います。

(濱田委員)

この間土井副会長からご紹介いただいた広域バスマップですが、去年3月に作って、芦屋市のエリアの路線図も載せていますし、裏面にも芦屋のターミナル等の情報も入れております。好評でして、WEB版もあり、ブログも開設しバス停の写真もいろいろ入っています。今回のマップは、この広域マップとは違う観点で作られようとしているのでしょうか。

(正司会長)

著作権はどうなっているのでしょうか。

(濱田委員)

宝塚のNPOさんがもっておられます。

(事務局・水谷課長)

広域マップは参考にさせていただくように考えています。

(下谷委員)

阪急バスさんが作っていますバス系統図は法律に基づいて作成されています。マップについては、路線における運行頻度ぐらいの表現にとどめて、どういう施設にはどうい

う系統があって、系統を別途載せるなどの情報提供にしていただければもっとシンプルになる。全部色分けすると施設の情報がわからなくなるので、頻度によって太く細くするなどしてもらえばどうでしょうか。

(土井副会長)

実は「南つつじヶ丘お出かけマップ」は、私も一緒に参加させていただいた、いろいろ工夫があります。裏面をみれば、「平日お出かけ情報」とか「休日お出かけ情報」とかの情報が掲載されていますし、上には、「南つつじヶ丘自治会との皆様とのワークショップによる」と書いています。このマップの問い合わせ先は、京都府地球温暖化防止活動推進センターとなっています。行政がお店の紹介をそのまま出すと、議会でも問題になる可能性があります。つまり裏面のお出かけ情報にあります特定のお店の紹介などを行政がお金を使って紹介することは問題であると言われることがあります。実は、ワークショップで皆さんから出てきたお話で、よく行くお店に対しての情報提供であって、当然掲載されないお店もあります。しかし、南つつじヶ丘の皆さんからのご意見をいただき掲載しましたと議会にも説明します。しかし、今芦屋市がお出かけ情報を入れるとしたら、民間施設のほうに多分行かれると思いますし、また皆さんがよく利用される施設を入れるとすると、なんらかのかたちで、民間施設に対する不平等が出てきます。でも、それで多くの方が納得できる仕組みをつくっておかないと、印刷物として配布した場合、後で問題になるかも知れません。

地図の下に国道9号テクテクマップがあります。これはワークショップのときにずいぶんお話が出たから載せています。国道9号に多くの商業施設が集積している商業施設に行くのに、ダイレクトに南つつじヶ丘からバスでは行けない。はじめはバスで乗り換えするという地図になりそうであったが、良く考えてみると、近いのだから歩いていけばいいのではないかと。歩いていける距離だから、それで距離と時間を書いたものです。いろいろな議論をしたあげくのもので、かなり地元の人が賢明な判断をしたものであります。

もう一つお出かけマップは、住民の人に配るだけでなく、阪急バスのバス停にもこういう地図が提出されている方がいいと思う。バス停に行っても自分の行き先さえわかりづらい。是非バス停に亚克力板で貼り付けるとか工夫して欲しい。バス停から行ける情報をお出かけマップ的な情報で掲載するなど、少しの工夫で使いやすいものにすることが重要です。

南つつじヶ丘のマップには、ダイヤ情報もあります。地図づくりでは、まず誰が使うのかについて、目的をはっきりさせ、通勤通学用の地図と日常的な買い物とでは行き先がおのずと違う。両方満足するような地図となると情報量が多くなってきます。また、バス事業者と地元の人たちとがバスサービス不足分に気がついてくれればありがたいと思う。

もう一つ追加すると、地図を配っただけではあまり意味がない。市民にどんな形でアピールして提供するのも大切な問題である。例えば「環境問題を考えましょう」ということでは、5月に環境大臣サミットが神戸であり、市民の方にも是非考えましょうということで、このマップを配布する。そのためには公共交通を使うことが大事であるというメッセージをつけた上でこれを配る。市民の方の見方が少し変わりますね。こうしたことが大事です。

(坂本委員)

これはよく出来ている地図です。こんな地図を見ると一度亀岡に行きたくなるな。という気にもなります。地図の効用はそこに住んでいる人たちだけではなく、遠くから人

がくる。そんな気にもなる。芦屋もこんな地図をつくとみんな芦屋に行こうか。とそんな気もなりますね。

(濱田委員)

この地図は、MM(モビリティ・マネジメント)で、いろいろな形でワークショップを重ねて積み上げられた結果、できたものですよね。成長していく原型を作るにしても、作るときに、まずは“たたき台”を住民との対話で作っていかないと行政と事業者だけでたたき台をつくるのはなかなか難しいのではないのでしょうか。兵庫県では川西市が「かしこい車の使い方」という同じテーマで“お出かけマップ”をつくっています。2002年に全国にさがかけてつくりましたが、その後は確かバージョンアップはしていないと思います。

(亀田委員)

民間施設は難しいです。少なくとも公共施設と金融機関とか医療施設を載せてスタートするとか。

(土井副会長)

川西市はサティを入れています。県で作成したので問題なかったのでしょうか。

(正司先生)

委員会の報告書の中でも、大丸さんとか大きな商業施設を入れました。小さな店舗など網羅的には無理でしょうか。ある程度は大丈夫だとは思いますが。

(事務局・篤海参事)

公共的施設、銀行とか大丸は載せてもいいかなと思います。民間を載せる場合は広告料としていただければ、説明はしやすいと思います。

(土井副会長)

誰が見ても文句が言えない商業施設であればいいのでしょうか、地域の人声を聞くと小さなものができます。話は少し別ですが、こうした施設からは次回掲載時に広告料をいただくことで改訂版作成の原資確保も考えておくことが望ましい。

(正司会長)

シンプル化をどのようにするのが難しい。例えば芦屋市内の運行系統図。これはこういう名称で残したらわかるのかどうか。どこまで残すのか。

(西山委員)

駅名は別として、道路を表現しているのに意味があります。緑町経由であればどの道路を走っているのか。潮見町経由であればどの道路を走っているのか。お客様の多い停留所や何か施設があってご利用の多い停留所と後はどの辺の道を走っているのか。後で市民の方でイメージをもっていただけるかな。

(坂本委員)

潮芦屋であれば中央公園。総合グラウンド。逆に総合グラウンドに行きたいために潮芦屋中央。そこにある市民がよく使う施設を書いてあればよいのでは。

(正司会長)

地図に落とし込むことが基本の話となっていますけど、総合グラウンドはこの地図では読み取れないでしょう。残すべきバス停名を残す。西山委員の言われるそのバス停がどの向きにバスが走っているのかが分かるバス停名は抜けないし、坂本委員の言われる市民が良く行かれる施設のバス停名は掲載することになります。バス停名全部地図にいれると見にくくなります。

(事務局・水谷課長)

亀岡の地図は背景が白地図的になっていて路線が際立って見やすくなっています。

(西山委員)

これは、市販の地図を一度トレースしたようにかたちにしていて、真っ白の地図にして、5系統を色分けしてより分かりやすくしています。

(正司会長)

このレベルで、先程事務局からエリアごとでグループピングしたらどうかの提案がありました。そうすると実際に使うときは現場に行き判断しないといけない。そこまでかなりシンプルに地図にするのか、もう少し追加情報を入れたものにするのか。頻度で太い細いという話もあり、もっとシンプル化しようとするれば30分に一本の路線は全部カットしてしまう方法もあります。

(坂本委員)

グループピングにして色分けをする。芦屋市は狭いのでどうでしょうか。グループピングして役にたつのでしょうか。

(西山委員)

今回のマップについては、今年度3月末までで正味2ヶ月しかありません。民間施設を表示しようとすれば公募などの方法もあるが時間がありません。とりあえず、たたき版で作成する。サイズもA2版かA3版か。ベースは地図であり、地図の上に路線とか系統を落としこんでいく。今回は、市民の方への動機付けぐらいにして詳しい情報は阪急バスの営業所に問い合わせをしていただくか、パソコンのHPで見るか。今回は試作版、凝縮版でいったらどうでしょうか。

(亀田委員)

運行している道路も限られていますから、その線を引いて走っている番号を書いて、ここにある運行経路を横で表示すればある程度分かりやすくなるのでは。

(西山委員)

調整会議でも意見が出ました。このバス系統図は運行経路を全部書いていますね。たてに並んでいないのでわかりづらい。縦横きれいに並べたらどうかと市から提案いただきました。主だった停留所ぐらいはたてにきちっとそろえていくと、一般の方でも目をおっていけば見やすくなる。A3版であれば、表が地図に、主要停留所をおとし、番号で一覧表を作って運行系統図は裏面に記載する。おでかけ先も裏面に掲載。整理すれば体裁が整のうかなと思います。

(土井副会長)

イメージとしては、冷蔵庫のドアにはってもらうとか。A3であればちょうどよいし、A4なら持ち歩き用。

(西山委員)

今、南県民局でされている芦屋市域の美術館と西宮市域の酒蔵めぐりのループバスがあります。このリーフレットはラックサイズで置き易い。広げるとA3。ルートは簡単なので2色です。地図上にルートなり停留所をおとして、裏面が美術館とか酒蔵、レストランなどの情報を掲載しています。これはコンパクト版のエリア限定版で、これの大きい分ができればいいかなと思います。

(土井副会長)

絶対に抜いてはいけないバス停はありますか。

(坂本委員)

水道橋かな。

(事務局・鷺海参事)

よく利用されるバス停の表示は残したほうが良いと思います。坂本委員の言われた水

道橋はたぶん多いと思いますし、若葉町とシーサイドセンターなども多いと思います。阪急バスさんに残すところと省くところをよくお聴きします。

(土井副会長)

坂本委員の言われた、よく尋ねられる施設はバスで行けますよ。というメッセージをだせるようにしていけば。その旨あらかじめ入れておくとか。お出かけ情報にちょっと強調して。

(亀田委員)

公共建物としてのターミナル的なところとか、芦屋市民プールとか多少残しておいたほうがよいのかなと思います。

(西山委員)

市がつくった芦屋ガイドマップでは、A3では今の4分の1になる。非常に細かな情報が入りすぎている。公園、児童公園、保育園、市営住宅、集会所など。ある程度エリアで情報を消していかないと。

(事務局・鷺海参事)

それは5、6枚重ねて作っていますので亀岡のように道路中心でいいのかなと思います。そのまま縮小すると何も見えなくなります。芦屋市は東西2.5km、南北8.5か9kmだから亀岡の地図を見ると東西は入りますが南北では難しい。市街地だけになり、北は無理で、奥池のハイランドは載せれます。

(土井副会長)

地図の配布方法はどうか考えられているのでしょうか。

(事務局・鷺海参事)

費用にもよりますが、出来るだけたくさん作って、転入者だけでなく、どこにでも置けるようにすればよいと思います。市の窓口、公共施設、駅に置かしてもらって、印刷枚数も多くしたいと思います。

(土井副会長)

「できましたよ」という情報の市民への伝達方法は。

(事務局・鷺海参事)

広報紙やHPです。日刊紙もします。日刊紙は効果あります。

(亀田委員)

毎月1日と15日の広報に表示されればどうでしょうか。あれはA3版だから1面使わせてもらったら。カラーは無理としても。

(事務局・鷺海参事)

広報紙にバスマップを載せるのは無理です。

(濱田委員)

初版を出して、その地図を成長させていく仕組みをつくっておかないと、おうおうにして出したきりになってしまいます。

(事務局・鷺海参事)

市内部でそこまで議論していません。一回作ってみて、その効果で考えてみます。その効果が高ければ改訂版ということになります。

(土井副会長)

効果が高いというのはどこで判断されますか。

(事務局・鷺海参事)

市民の方とお話すれば反響でわかります。アンケート調査でもすればよいのですが、そこまで決めていません。

(土井副会長)

使いやすい地図は人によって違うので、使いやすくしてもらうためにA3にしてちょっと余裕ができれば、それぞれ個人がカスタマイズ化できるようにすればいい。自分でマップに時刻表に書き込んでもらう。

HPなりバス停に行って書き写してくるなどすると格段に使いやすくなる。市民の方が使えば使うほどより良い地図ができますよ。というメッセージをつけないと。よい反応を引き出すインパクトを市民の方がわかっておられない。

(坂本委員)

それはいい視点ですね。地図だけやバスのダイヤだけでは煩雑です。メモ書きがあればご家庭の方はすごく便利な気がしますね。

(西山委員)

つい先日、京都府下の長岡京市版のマップが出きました。これも裏面には、時刻表の枠をきった空欄を設けています。

(土井副会長)

事例紹介ということで、京都市右京区ですが、かなりエリアも広いのと、20万人の人口ですので全員の方にふさわしいものがないので、先ほど言われた時刻表のカスタマイズ化などのアイデアを採り入れてます。

配り方は、京都市の広報の中に挟みこんである。そのときに「車利用から是非転換してください。」というメッセージ。市のHPで詳しい情報をあげていることと、是非ご参加くださいと行動変化の簡単なアンケートをネットで実施しています。これは、アンケート目的よりもむしろ行動を変えてもらうことが目的です。

(濱田委員)

ところで、この検討委員会の名称にコミバスという名称がありますね。そもそも市内に交通空白地が何箇所かあって、その空白地を解消するということを目的として、何か新しい公共交通のタイプを立ち上げるようなことも視野にいれて、この委員会をスタートしたはずです。そのあたりの今後の対応策についてどうなっているのかを確認の意味でお聞きしたいのですが。

(事務局・鷺海参事)

もともとコミュニティバス等検討委員会という名称は、立ち上げる前の段階でいろいろ相談させていただき、コミュニティバスを導入する前提であれば非常に検討委員会は難しいですよ、と専門家のアドバイスをいただいて、白紙の状態でご検討いただくことで立ち上げをさせていただきました。その結果、報告書というかたちで出てきています。

現実問題、コミュニティバスを市が直接かかわって導入することは非常に難しい、市が主導していくのは難しいと考えていますので第1段階の市民への啓発に力を入れていきたいと思っています。

連絡調整会議も報告書に基づいてつくったものであり、先程西山委員さんからもお話しがありましたように、問題が起きたときの単発ではなく、もっとお互いに話し合って解決していきたい。

(土井副会長)

この地図を初版にして、市民の方と是非一緒につくる機会をつくれればよいと思います。どういう効果があるのかというと、見えてない需要がみえてくる。市民の方はもう少しいろんな使い方、こういうルートがあれば亀岡の例にあったようにこのルートがあり便数があるがバランスが違う。交通事業者ともなかなかそういう場がもてなかった。そういう場に市民の方と一緒に話していきながら、新しい少しのルートを再現す

ればルートなりネットワークができる。地図を作るというのは、一つの方法であり、最終的にはより利用しやすいもののサービスになります。

(亀田委員)

今回利用促進にあたってマップがあれば便利ですね。インターネットとかHPを使って利用促進をしている自治体は実例はありますか。図書館はHPから予約でき非常に利用しやすくなった。そんなレベルで。

(土井副会長)

公共交通は決定的に何が足りないかというところと情報提供が不足しています。最近はやや情報をリアルタイムで京都の洛ナビとか、また携帯電話でバスと鉄道とで行き先を決めると、自分の今見ているところから現在使えるバスとかバス停がわかる。ということなどでいろんな情報提供をすることで利用促進をはかっています。例えばJRとリンクすると、もっと使いやすくなりますが、そういうインフラをつくることは結構お金がかかります。ネットを使う方は限定されているし、携帯は見にくい。目的に応じて使い分けた情報をいろんなかたちでしていく。バスと鉄道をリンクして情報提供することもちよっとずつふえてきています。

(下谷委員)

自治体の自前のコミバスはHP上にしているところはあることはありますが、それがひろがっているかといえばひろがっていません。

(濱田委員)

情報ですが、三宮のミント神戸にできたバスターミナル等では毎日2000便のバスが集中して発着しており、乗り継ぎ情報がわかりにくいと言われていました。そこで、これまでも事業者と各関係自治体とで「バス停マップ」や「総合時刻表」を出したりしてきたのですが、このたび、インターネットから乗り継ぎ情報が検索できる「ポータルサイト」を構築して、来週月曜日から本格稼動することになりました。各バス会社の発着情報、乗り継ぎ情報を全部集めてきて載せます。持続可能な形で、バナー広告料で運営していく予定です。

(正司会長)

どうしても見やすくしようとすれば重たくなってきますし、軽くすると見にくくなってきます。鉄道がバスよりやりやすいのは路線が少ないからであって、特にバスではかゆいところに手を届かそうとするとより重たくなってきます。

さきほどの三宮駅のいろんな情報が一箇所で見れるサイトを作るのも難しいことですが、実は作ったあとの更新作業が重要で大変です。そこをきちっとしないと信頼性のないサイトになってしまいます。

(濱田委員)

今年環境大臣会合が5月に神戸で開かれます。今回作られるマップもこの会合をきっかけにすることを冒頭土井副会長からも言われましたが、県としても、今年10月から毎月一回最終金曜日に「公共交通を利用促進する日」を設けて、バス事業者、鉄道事業者、関係自治体、県と国でやっていこうという一大キャンペーンに取り組んでいきます。ポスターとかチラシを作って啓発をしていこうと。「日」の名称も公共交通を利用する日というのではなく、3月1日から1ヶ月間、県民に公募する予定です。みなさんご協力をお願いします。

(土井副会長)

カーフリーデーというのもあります。車から自由になりましょう。ということで車を使わないライフスタイルを考える日ということなのです。

(正司会長)

カーフリーデーはパリから始まりました。道路を人に開放しましょう。EU諸国では定着していて、国内では名古屋とか横浜、松本も参画しています。年に1回ですが。

ところで、今日の議論をまとめますと、適切なマップを市民の方々に提供することは、公共交通とまちの一体性を確認する上でも、またそのことをわかっていただける、さらにバス網は意外と便利ですよ、と気づいてもらえる価値がある。このような情報を伝えるためのマップをつくるということには賛成いただけだと思います。今回の作成するマップは初版となるわけですが、今後第2版、3版と重ねてさらにいい形にして欲しいと思います。

マップについていろいろと重要な指摘をいただきました。まず、そのコンセプトはお出かけマップ的イメージ、そして、わかりやすくするために、シンプル化する点が重要だというお話だったと思います。市民の方が工夫して使えるスペースを残しておく、そこにどのようなことを記入されるかといった情報を市民の方々からもらって、次の版にのせることも可能になると。また、マップを配布するのに単に出来ましたという配布方法ではなく、どうしてこのマップをつくり配布することが当委員会の検討課題の結果の活動となっているのかを伝えて配布することが大切との指摘をいただきました。さらに、これまでとはもすればバスをよく使っていた方ならわかるバスマップをつくっていたが、そうではなく、あまり使っていないけど、便利であれば使ってもいいなという方を相手にしているマップをつくる。その方々と話し合うことで、日頃のルートのなかで配慮が薄くなっているのはどこかわかるようになるはずだとの指摘もありました。そのような話し合う場を是非今後うまくつくっていくことが大切です。その場の一つがこの委員会であって、またバス連絡調整会議で議論していただければと思います。

(正司会長)

事務局、その他について説明願います。

(事務局・水谷課長)

特にありません。今年度内はこの委員会は開催する予定はありませんが、新年度については後日調整させていただいて連絡させていただきます。マップについては、今日の出た意見をふまえて、あと事務局と阪急バスとで進めさせていただくということでお願いいたします。

(正司会長)

事務局からのご提案よろしいでしょうか。

<全員異議なし>

閉 会